平成２４年度第３回北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

（１）会 議 名：平成２４年度第３回北杜市子ども読書活動推進計画策定委員会
（２）開催日時：平成２４年１２月１３日（木）午後１時３０分～
（３）開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館　ＳＶホール
（４）出 席 者：　策定委員　安藤 義行／田中 壽弘／柴山 裕子／倉田 弘江
田畑 雅宏／田辺 静香／宮川恒雄／望月 美良／山口 昇
浅川 希久子
事務局　小林 弘（図書館長）　篠原 美恵・小野 まどか（総務担当）
（５）議題：１）「北杜市子ども読書活動推進計画（第二次）」の内容検討
２）その他
（６）協議内容
１．事務局より、市の事業仕分けについての報告　　※別紙参照
・部局より事業仕分け対象を３つ挙げる中で､ブックスタート事業も対象となった。
・ブックスタート事業に対するアンケートを実施していなかったので、成果指標を示すことができず、仕分け人への説得力に欠け、「不要・凍結」という結果になってしまった。
・今後、ブックスタート事業について、図書館としての方向性を出し、図書館協議会に諮る。

委　員：別紙　６）①「絵本を無料で配布する必要があると判断できる材料がない」というが、仕分け人はブックスタートの意味をわかっていない。
委　員：別紙　６）②「図書館事業として行うべきではないのではないか」という意見について、図書館に来るきっかけづくりである。
委　員：別紙　６）③「絵本は親が選んで購入すべき」という意見について、親が選ぶことは当然だが、行政として行うこととして実施している事業である。

２．事務局より、アンケート集計の修正を提示

１）「北杜市子ども読書活動推進計画（第二次）」の内容検討
＊事務局より資料についての説明
委　員：ブックスタート事業の内容について、図書館協議会に諮ると言ったが、図書館協議会を先行し、それをプランに活かすということか。この場で検討していきたい。
委　員：ある程度、この策定委員会で触れておき、それを図書館協議会で諮問す

るのがよい。

委　員:子どもは地域で育てるのか､家庭で育てるのかという大きな問題なので、ブックスタート事業については、真剣に考えていかなくてはならない。

委　員：仕分け人等に、事業内容をしっかり知っておいてもらってから、仕分けをしてほしかった。そもそも、事業仕分けとして挙げる内容だったのか疑問である。

委　員：自分の子どもが平成１７年度にブックスタートの対象児だった。親が受けた感想としては、まだお座りできるくらいの赤ちゃんに本を読んであげよという意識はなかったが、ブックスタートを受け、もう本を読んであげてもいい年齢なのだという意識に変わった。その後、図書館で本を借りるようになった。

ブックスタートプレゼント本のリストの中から本を選べるので、無駄にはならない。

委　員：ブックスタートの目的は、まず本を読む前に、親と子がふれあいを持つためのきっかけづくりである。

委　員：ボランティアに関わっている者として、ブックスタートで子どもの反応を親が見て、それに新鮮さを感じている。

「本は親が買うもの」という意見があったようだが、親の目線と司書の目線で選ぶ本は違う。

ブックスタートは、読み継がれている本から、本の良さを知ってもらうきっかけとなる。「読む本」を与えてもらっている。

実施時期については考えていく必要があるが、事業自体はなくしてほしくない。

委　員：事業仕分けの結果は拘束力がないにしても、全く無視することはできない。予算が確保できるか難しいところではあるが、どういう風にプランに組み込んでいくかを考えていかなければならない。

委　員：不要・凍結が１７人、要改善が６人、継続が６人ということだが、仕分け人と判定人の男女比はどうなっているのか。

事務局：仕分け人は男性６人（全員)、判定人の正確な数字は不明だが、おおよそ半々くらい。

委　員：子育て世代が判定人にいない中での判定には疑問を感じる。

委　員：子育て世代にとっては、とてもよい事業。ブックスタート事業をなくすことは、市の子育て支援の方針から逆行している。

ただ、内容は考えていくべき。

委　員:評価軸がないものに対して即結論を出すのは難しい｡調査が必要である。

委　員：ブックスタート・セカンドブックは、保護者とも接しているから意味が

ある。サードブックは学校からの配布であり、目的が伝わりにくい。

委　員:「ブックスタート」を行っていなくても、内容としてはブックスタートの趣旨と同様のことを行っていることもある。このブックスタートの理念は大事。方法論で解決していくしかない。

＊第３章の検討

・全体が連携しているとわかるイメージ図を描く。
・イメージ図において、システム関係は別に表示する。
・わかりやすいように、文言を追加する。
・７行目　「関係する機関」→「子どもを取り巻くすべての人々」に変更
　※糸賀教授の表現を参考にする
・障害者への支援は、第４章の具体的な方策の中で触れる。

＊第４章の検討

１．家庭・地域等における子どもの読書活動の推進

・ブックスタート事業は、単なるバラ撒きではない事業として展開していく必要がある。
・（２）の地域における子どもの読書活動の推進について、ボランティアが必要不可欠であり、人材育成が大切。
・育成会の活用はできるのか→図書館活動をするところは少ない。
・「◆公民館」の項目については削除
・「◆児童館・放課後児童クラブ」の内容については、案のとおり。
・「◆放課後子ども教室」については、案のとおり。
・「◆健康増進課」については、案のとおり。
・「◆生涯学習課　子どもに関するイベント等の開催および情報提供」を追加。

２．学校等における子ども読書活動の推進

・（１）の１行目　「学校における子どもの読書活動の推進」を削除し、「学校図書館は」に変更。
・（１）の具体的な方策については、案のとおり。
・（２）の具体的な方策については、案のとおり。

３．図書館における子ども読書活動の推進

・「◆地域団体との連携、働きかけ」「◆教育委員会との連携」を追加
・「ヤングアダルト資料の収集」を追加。
・その他の具体的な方策については、案のとおり。

４．子ども読書推進活動の啓発・普及・広報の推進

・内容については、案のとおり。

５．子ども読書活動推進体制の整備

・２行目　「…欠かすことができません。」のあとに、「そこで、この計画を推進するために、推進委員会を設置します」を追記。

・３行目　「幅広い子どもの図書資料の提供に努めていきます」は、体制の説明ではない。

委　員：レンタル会社「TUTAYA」が運営する図書館が出来たと聞いたが、どんな内容なのか。

＜参考＞

佐賀県武雄市にオープン。ポイントカードを図書館カードとして利用。年中無休で夜９時まで開館。時代に即した使いやすさを提供している。

一方で、利用者の貸出履歴が図書館業務以外に使用される可能性や、レファレンスや選書における課題等もあり、非難の声も挙がっている。

委　員：同じことをしようとは言わないが、色々なサービスを行うことも必要。過去のデータだけを見るのではなく、新しい試みを行うことも必要。

委　員：若い世代は、本を借りるだけではなく、図書館を利用することで違うサービスが受けられるといったように、広い情報を必要としている。
中高生の意見を聞くだけで、大人の目線とは違う図書館の魅力が出てくるのではないか。

委　員：ポイント等、何か特典があると利用が増えるのではないか。

委　員：図書館は無料が原則なので、差別化が難しい。イベント招待の特典等は考えられる。

委　員:学校図書館では、しおりのプレゼントや貸出冊数１冊増等の特典がある。費用がかからないように工夫していく。

委　員：おはなし会は、どこでも実施してもらえるのか。

事務局：スケジュールが合えばどこでも実施可能。

委　員：上記のようなことも、もっと PR してほしい。

委　員：まとまった組織がない。現段階では中央館だが、組織を立ち上げて、この計画を検討・推進していく必要がある。
市民と行政とが協力して推進していく必要がある。

委　員：行政（図書館）だけが推進していくものではなく、行政と市民とが同じテーブルで話し合う機会が大切。

委　員：共通認識を持ってほしい。

委　員：計画を策定しただけで終わってしまう場合も多いので、実際に推進していく組織が必要。

委　員：学校（教育）も考えながら組織していかなくてはならないので、「呼びかけ」的な表現を使用する。

委　員：市民は、「行政が関わっている」ということが重要なので、すべての関係機関が組織に加わる必要はない。

委　員：新たに組織を作るのではなく、この策定委員会を発展させてもいいのではないか。

委　員：それでよい。

委　員：ブックスタート事業に関しては、職員体制の見直しや内容について考えていかなければならない。

委　員：ブックスタートの内容を知ってもらうために、一般向けの講演を実施してはどうか。

委　員：ボランティアの組織づくりが大切。

委　員：今までブックスタートを知らなかったが、実施の大切さを感じ、事業仕分けの対象となるのが不思議だと思った。利益を求める事業ではなく、北杜市全体で考えるべき事業。少ない予算を削って、子どもに対する支援を削るのはおかしい。見直さなければならない事業は他にもあるはず。

委　員：「計画」なので、譲渡する必要はない。仕分けにかかったから削るのでは何のためにやってきたのかということになる。
努力をしてもダメなら、そう評価されるだけのこと。きちんと説明してダメなら仕分けされても仕方ない。

委　員：予算によっては絵本をプレゼントできないとなると、プランが絵に描いた餅になってしまう。

委　員：ブックスタートという事業を残しておけるならば、どこで実施してもよい。

委　員：仕分けの結果は市民の意見を反映しているのだから、予算に反映していないとおかしいと思うのではないか。

事務局：平成２５年度のブックスタート事業の予算は減額。内容を検討している。
平成２５年度にアンケートを実施・分析し、平成２６年度に反映させる。
ブックスタート事業自体は継続していく。

委　員：ブックスタートの趣旨に基づいて、予算の範囲内で実施するならばよい。

委　員：ボランティアの体制を強化していく必要がある。

審議会等で指名する２人以上の署名

委　員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

委　員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿